素

黄素妙論(クワウソミャウロン)周(マハ)天(テン)真(シン)論(ロン)

交合和違(カウガフノワイ)

九竅之要(キウケウノヨウ)訣(ケツ)

淺深利害(センシンリカイ)損益之(ソンエキノ)辨(ベン)

八深六淺一深之(ハッシンリクセンイッシンノ)論(ロン)

五傷之法(ゴシャウノホウ)

淫情十動之候
財命若怨之報
吏所右遇之報
房中之業術
道士之跋

同次治

雑知昔奇

道三著

黄素妙論

むし黄帝素女に問ものがたりて
聖人寿或ハ千二百歳或ハ八百歳とかやり
中古いまだしてを百二十歳とたもちるに今ハ
漸教十年ありてかろぶそれのごたのごび
云疫形る者をくかく痼疾の者おほ
必是寿夭安危のふ因ひるもの何のいと

きなどや
素女答ていひくそし幼(ヨウセウ)にして痛(ヤマヒ)おかく
知(シ)へ前(サキ)みてむいでざるハ父ひいぢ(ブボ)ハ
むろし胎(タイ)脈をうみて法事(ケンゴ)とゆくまゝざる
僧(イフレ)也又父母を望(ケンゴ)周(マワ)りて甚子幼より此時
云病なりといへども二十三才よりて後
漸(ゼン)くに病者となりひいぢ(ブボ)ある人をまた
ヤウゼウ
養生(ヤウジヤウ)をあらいそしまし丈(ホウ)生(ヤウセイ)をいふ
の保(ホウ)養(ヤウ)男女(ナンニヨ)の交合(クワウカウ)
またかま(セウネン)壮歳(ソウセイ)の時(トキ)の血氣(ケツキ)既(スデ)に消(ジエン)澤(タク)
して骨髄(コツヅイ)枯(カレ)は陰(イン)精(セイ)
ぢを交合をそくいふ
たりいへんして長生(チヤウセイ)をひざんや
黄帝問てのたまく男女交合の和(ワイ)遠い

素女答ていはく夫て花陰交合ていはく
物とは男女陰陽交合ていふ
只時々ていふ事物生ずる男女陰陽合也
時ん人倫滅ていはく絶陰気交合
ために秘伝の要術ひろ説よ書生よく
奥儀治病を妙乃也今悉これとのたまふ
丈夫人の淫念をおこさしめんとて
まぐろべからざる女人よ淫慾の情念れい
多きもの五行
一ニハ男女ひそかに対面ていはく物語あどろ
に倫よ女のおりて赤く好るに心中ニ淫

まじ(ジ)の念さざ(ザ)すも也を射留みよ(ユ)ふ

茎(クキ)とも女人なれば門にあてゞ〳〵

三ニ八女人をかたどりたる像は悠念肺(ハイ)ザウよ

うごと云べし即(スナハチ)ち茎とも葉とも

三ニ八女人国とふるべ旧(ハヤ)く波ハ淫情脾(ヒ)の勝りいきたひのくに

いふことを時ゆるくしも葉と

お入(ニフ)をでゝなはゆるふくべうたひ

四ニ八女人国の中にうたひゆるさうみて津液(エキ)外(ホカ)よりおぎなひ腎(シン)気(キ)

いそがしくなりて門の口へ玉茎をめぐさ

出したる右とおなじくにたくべ

五三八女人国へ行て男女獨とそゝる女人な

ほて男の省(セ)とおぼしきものゝとをうん

おとこ　ほそくめバ　肝(カン)九勝の氣(キ)いでゝ
ふねて玉茎をふくむ門の奥(ヨク)まで
はめてあげるよろこべバ
いよ〳〵此五勝ほ深悠情念のいろ〳〵
知てあげるよ秘術をおこなひて女人義快(ヒト　ギカイ)
の精汁(セイジウ)おくりおくれてむ門のわくびくめた
うだくあとやまぬいきとはさしめ

だるよろこんでいろ〳〵時男むす葉とぬくべて
り〳〵時女のうちうらひげ頻(シキリ)よすり
まうらこゑを出してうめくことを男のいて
あらくめさせとどうたかくなるべ
て男ふ精汁をば掌(タナ)ごころにうけて妄(ミダリ)よもげ
くりらすべうだとそ五勝九氣いでゝざる
に男ふあて玉茎をふくむ門もまう

うはかハざるにまぎれてお入といふをば男子精
けえやくふるへ抱えたるべむおもく寝へとを
て男よたてざるがごとく婦人ハ兵法者ヒャウホウシャの刀ダチを刀かて法奥
意とおさめ方敵テキようりざるごとく男子ともく
さうんなる時ハ茎ハばくものにゆうをせざけ
く交合そろしどもひろをまもぶぬ今

きハ多ハ精汁のごとくしてむ門義快ビクワイの
ものもうごばなはだ精キを愛こころめぬ
ハたゝハ敵テキかたようとをでもおんせをでしてむ
ふしくいめふようとりすがごとく
又女人の慾ヨクハ既ステニ動てむ門をうふをも
うろひ和よ流出もるよ男子ハ茎ハえ尽
して女人心ニテイ足ざれハ次シを

玉茎とおもふことなかれ
黄帝曰てのさはくる交合はなにを
もとめ何をかいのる岐伯曰男女
でうこうえざるん陰陽和合を門とうけていふの
合れ奥儀書生の神術也志のれ交合
のみを法九ひり
史一誇張物

女人とのさにふさ
男るそ股のるようにひらうめ
筑すべし女陰を膣よとからふ先
玉茎とうくへし男おむ門とのげ
めとおでうなかへるまでうり
玉茎をいる也志うそして女の陰念を
おそぐ動て女膣の気をいそぐよ

玄圭とうでかし八深(シン)浅のはをおこす時
兩情(リヤウジヤウ)ともよみたのしき百病(ビヤウ)たちまち消除(ジヨ)
する也

すゐ二虎歩物(ユホヤイ)

女人とうりをくふてのち
かしこゆる女の陰よりうめ男をおもふ
へべし五浅六深のはをおこす時玄門(スナワチ)より
ふれ津液(シンエキ)漸々(ヨウ)よりぐる如
きの男子ゆるくのびて女情(キエツ)表(ヒヨウ)して
びよ血脈(ケチミヤク)流通(リウツウ)する也

半三精搏(エンセン)物

男子生してまの股(もも)とをのはせ女児を抱へ
すこす女人まの股ひらけ男れ腿(ウチモヽ)の
くそ生し女の玄門をそうして男の陰をそそぐ

即両法和合して
はじめて男女の屍(シ)
淺(セン)き法とおてあり深(シン)
よりも
第四精(セイ)附物(フツ)勢(セイ)
女人をぶさにふ
り付(つ)けの右のそ
ちりそよひざ頭づき即玉茎(ヂヨ)
珠(ジユ)ともきせ深八淺の法をおこる
ひて玉門ひづきなるにふりておりひの
なる事なりのちりおく精汁(セイ)とい
ふすりの
第五竜勝(キヨウ)精(セイ)
女人とひ体のさにふさしめ男のあを

うく女のあらく枝うごかすまで女のらく枝おもふ
こゝ肘女人の慾情（ヨクゼウ）と快（エキ）とをつゝめ陽玉茎おさし
快（エキ）ときゝめ液汁（ジウ）うごかすまで動して義
第六風翔（ハウシヤウ）勢（セイ）
女人と床のよよとさゝめよたる枝のさゝり
ふさゝめて女うごかすまで女の股

とうゝ女うと股のよようぐめたく男ハ床
のうへうう立おうゝまう玉茎とふうきゝ入
くるゝ門のたくをたゝ右よおおぐべし女枝
れぼうう腰枝右右ようとうす附九深八
液のはゝ枝おとうべし
陽秘術九為也
第七鬼吃（イン）勢（ト）

男女仰(アヲギ)よろこあふ女の男の
股のよりより女の面男の口
むうふ足女のまそ玉茎玉ざりも
門よりく琴弦(キンナシ)よのぞはあうりひ
生ずる附ふくさく浅深のさ様
おこりふだ女のふ事美快なるを
よひり

第八奇接(セツ)勢

二女と男ふたく一女とび仰(アヲギ)卧して股を
ひらき二女男の交合せするはめのごく俛(ウツツキ)臥して
む私体あいせなる体のさたる女の股(マタ)のるに
かくこもり女女のまり股(マタ)門を相合(アヒガツ)てた
びよびれあひ男いま女のまり股(マタ)門
かくこもうと下のお門をおしかぶれ

うほうの時先下の女乃むこ門ゟ玄蕃
さし入てをびふお入をる処とのむこ門
うらやう体おこし津波をおびふ
ゟ浅深の法をおこるゟ又下のむこ門ゟ
をおくするまゝ門小玄蕃時又下玄むこ門小玄蕃
体さうして後(ユル)浅深の法を

おこゟ又ゟ門小玄むこ男の枯汁(ヤヨウ)とびうく
抜くなハてくうすべうず後ゟ汁
法嘗(ヤヨウ)中ゟ尉(ラツ)気(キ)とをひつ病の病
体ゟうそうるゟ(ノウツ)ぶうゟ(カウ)あう
ま九義定(ウ)物
男ゟかゞゟうそうるそ生す女のを
し玄男のをび体ゟ玄女の右の玄

とき男の陽(ヨウ)をとらまふ男の右手を
みく女のたゝらを球(タマ)おしのげ女の足
くびと男の右手を肩(カタ)かうらうけさせ女
の左の手と左の足(ニギ)とを握りまげてうしろの方へ
おしのべてまた一方の手も頻(シキリ)によく握りまげて
莖(レウ)を握りまげ谷間(コノマ)ハ谷実(コクジツ)のさまとみ

てきぶんうごかす九淺一深く法(ヲキテ)の如
玉門義快の事なり(ミサヲ)左の如き時津液
流おすること多し後は限(カキリ)なく男女とも
氣めぐり血通して諸病なきもの
いわゆる
黄帝のたまく九勢(キウ)く要術既(スデ)に了
ぬ陰陽交合の道

お人淑(ヨシ)なる物利害損益(カイエキソン)をかへりみず
こゝろよく我(ワレ)吾(ワレ)よこれを
喜(よろこ)ぶ女(をんな)会(あ)くいかく吏(つかさ)女人(をんな)義快(きやう)
もてなすものゆゑ又(また)
又玉(たま)堂(どう)の大(おほ)なる衣(きもの)
袖(そで)も何(なに)の奥(おく)ようり
不(ず)よりの時義快(きやう)
財(ざい)を前後(ゼンゴ)と忘却(バウキヤク)
感(かん)よたゝへうよて
始(はじ)めうり鼻息(イキ)
絃(いと)よ聲(こえ)をおし
おかくれぐれ拍也
三寸(すん)金絃琴(キンケン)弦(いと)云
三寸金蓮(レン)
三寸金蓮琴弦(ゲンシユ)
三寸金蓮琴弦(エイソ)云

五寸入(コノ)谷実ト云
七寸入谷昆(コニ)戸ト云
以上如此深ク八分(ハチブ)ノ名ナリ
のごふく一ところを切ル也常ノ法ノ
ごとく必五勝とやぶる
一云谷実(五寸)ノ常ノごとく急所を
とやぶる故ニ周(マワ)り勝ニ成ル

六寸入(ムツノ)念(ユル)流
一云愈(ユ)流ノ事ニ急所ヲやぶる
てん地(チ)ノごとくなり
なつげざる(ママ)む
二ツ昆(コシ)戸ニ志(こ)ゝろ
七寸
いて両の矢ぶくろを腰(コシ)ニ
附(ツケ)ざるむ

四寸小按摩ふるひまぶ必腎とやぶり
男女ともに病絶ず
又ものうくいそがわしく玉茎体ふ何ハて
すべやうおこるよく経道とやぶり胸中(キヤウ)よ
いそぐ時ハ必氣
諸疾(シツ)を生ず
黄帝問てのたまハく八深六淺九
一深といへんとや
淺ハ深六淺よりふく
指入くいたり八息を
ていさ六息ばかり
らず
なさ

ふうくも房事(三すじ)乱り谷実にうく依て
右は淺深と秘術とのありて常よりの
なるべくをおりをおほえ
なるず餘りふうの
毒を取ることおほし
実帝問くのまく男女交合ふ
よ五傷ふ法なつとい何のぞや

一ゝ玉門ゆるれず
玉茎ゆ入色うほかいざうる事
脇とやふる
二ゝ女人の淫情既ニ動ずといへ男
みそれをもつ
奥ゆき射る(ヤウヤッ)淫女のゆ中の
交合する時を必

常陸の病しとする
こゝに少壮く女に白髪交りの老男お對へて
玉茎うごかすこと
おゆるといいてもあて交合一抱け
とうすることさゝれが必用とやこゝ
絵ごゝろ盲目とるこ
四女の月水いまだやまざるにもあて交

合れの互に盲とやふの
五、男子洗濯して交合一歩の差
快るるこおりうまあて久く
お入とおこるこ帝間くのたまく女人こ淫情
動く候ひりといかおや
一、男子洗眠そうよ女ひそふ玉茎

我あざらうとて後ろうごうろ
うろ門とうするうの方に女れ
心中よ淫念をさすす得ん
二ゝ女人の男るにあよでよ語(コトバ)たい
ふれ月よ心とうよふすることろば
慾情うごくと知へ
ゝ女の足の指(ユビ)もて葉我ろさみ

ちる事ひろ淫事とのろ
すゝ知べ
四ゝ男女互ひさしく久我ろよい
邂逅(カイコウ)近(チカ)よあて既よ交合す時女
人ちづくといりぐ男るの精汁が
もくりまんて紙(カミ)無ておそろ
と仏そちづうの淫涙のほとお

こうして久我（キウセンス）ぶ
五人好く案（シツカ）るお
きなくおり
此念をざすとき
六ツ男女既よ交合
し男の脊（セ）を
動揺（ユウ）して

玉茎のもとおもてこすりまはし男のつ
くよいところをこするい淫念を動
ざ動してむ門の奥底（ワウテイ）よむ茎の
いさらんするとのぞむとき
九ど交合（エ）ときは女酔ごとくむ茎淡
ぬる色ぜ男の物と女のよろこびも

しきもあてこすりまはし堅（タツ）横（ヨコ）よこ
ろ衣おしてもれとも玉茎の
陰中よう色紀ずおもてつくよ
ものと知へし
十ど交合ときは男玉茎淡淫汁
をおこるよう次第よ女こづう
動揺（ヨウ）し眩（スデ）こと

の際とうくへ下ら頻よぬさ
とおもへば爽快のさいはひとなり
てゐ門の奥(ヨク)丸右ゑ玉葉をひさ
らもあゐ門よりり津液のおりく湧(ヨヒ)
おするとおもくもづくるゑ玉葉ぬ
くだし
黄帝問そのたまいく男女婚合せ

むる時命ぬ若ゑ交ぬ古(キツ)(ケウ)ひりや
まず女若くうく
天地の震動(シンドウ)
雷電(ライデン)颯颯(ソウライサツ)翔
日蝕(ニチショク)月蝕(ゲツショク)
立春立夏
春分秋分

大風急雨(キウウ)
大寒大暑(カンタイショ)
庚申甲子(カウシンキノエネ)
立秋立冬
夏至冬至(ゲシトウジ)

五月五日

右此日時ハ必交合すべからざる事をとうず

神社(シヤ)佛閣(ブツカク)

井竈(サウ)厠(シ)傍

右所ゝをまぢるべからずより縦(タト)ひ

聖賢(セイケン)像(ザウ)前

日月光(クワウ)下

まぢる時ハ鬼神(キシン)必其身を祟(タヽ)ル

憂(ユウ)愁(シウ)なんどを生(シヤウ)じたる時怒(ド)氣(キ)

或さうの病(ヤマヒ)久(ヒサ)しく久(ヒサ)

筋力(キンリヨク)をうしなひたる時酔酒(スイシユ)飽食(ホウシヨク)

て脾胃(ヒイ)をうしなひたる時諸病(シヨビヤウ)これ

愈(イ)て血氣いまだ全(マツタ)からざる時慎(ツヽシ)

て来月一月まぢわるべからず

右は打(ウチ)留(トメ)合(アハ)すべからずより縦

ら婚合する時は血氣やぶれ筋骨
うるれ大病となりおろふく憔悴(ツマシム)し
又女人壓氣(キイロ)衰ふるにおろふく憔悴し
骨ろく肉ひれて子の気そなひざる
年ふけくおくく産まて子ろ衆
うはろひおくんをわらびたけくて男の
ち気のごく腋(ワキ)ふたくろ門ろ沈澁(シブ)

ろ若(シラナ)赤(ナガ)帯おどろる女よか陰をにを
受(エミ)はざろずおりをは交合せし
むる時ん男のたろと猥(ワン)ざり処つむむ
ぐ〳〵
黄帝内経のろ女ん男ろく精汁減
ろろすま年(ヌシ)数ろろうくろ法術
ろや

まふ如き者ていろく

男子廿歳より卅歳迄ハ三日ニて一度ツゝせ

三十歳より四十歳迄ハ二日ニて一度ツゝせ

四十歳より五十歳迄ハ七日ニて一度ツゝせ

五十歳より六十四歳迄ハ月ニ一度ツゝせ

六十四歳より上ハ不定ニてあるべし

當時(トウジ)皆(ミナ)佐渡(サド)ニ流罪(ルザイ)ニ成(ナ)りしとて

武士三十のはうんありて一日一夜の内

小粥汁と三度飯(メシ)ニ香物(コウノモノ)ニ成(ナ)りしを

喜(よろこ)ぶ故(ユヘ)り其人中年(チウネン)より

て白髪生(シラガオ)しゑ齢(ヨハヒ)ハ

よおよそ七十ニて筋骨(キンコツ)

絶(タヱ)よハ諸病(シヨビヤウ)蜂起(ホウキ)して

物(もの)うく儀(ギ)ニ

黄帝問ての外にく房中小術秘
ひく奇妙を得る事ありや
素女答くいとく玄く玄ようやく
ずと皆是業乃功能也房中
小おひて茶御るん
緑膏霜膏んの源於女を用ひ

丁子 三粒
龍骨
右六種各細末して生蜜にて練
く男女交合の時お許むの奥ゟ
今淺源の法とおて事時ハ後体ゟ
ゆくふれ而ゟ抽て津液我
おすゝ限なし

おのずと気とおし義快の姿(スガタ)になる

玉鎖丹(サ)　男子の精汁とりまぜ薬なり

龍骨(リウコツ)一分　訶子(カシ)二朱　炮(ハウ)焼　縮砂(シユクシヤ)二朱

辰砂(シンシヤ)入分

右四種各細末しもろの糊(のり)にて赤豆(アヅキ)

粒(ツブ)ほどに丸一交合のまへ七粒温酒(リウシン)にて

服(フク)すれば女人(ニヨニン)五人なりとも

男子の精汁とりつくさざるはなし

如意丹(ニヨイタン)

石榴皮(セキリウヒ)　木賊(トクサ)

蛇床子(ジヤシヤウシ)　呉茱萸(ゴシユユ)

右各等分細末して交合の時はべ

に水にて練(ネ)りて茎(クキ)の下(シタ)を

ぬり玉門よりよく入て洗ふあと
ふべし乳女（ラウジョ）たりとも云々
のごとくなりて
壮（ソウ）腎（ジン）丼（ドン）男子のおとろへ腎（ジン）をあたゝ
のひ気力をとゆ
丁香（チャウカウ）　附子（ブシ）
肉桂（ニッケイ）　山茱萸（サンシュユ）
良薑（リャウキャウ）
蛤蚧（ガウカイ）各一匁

明礬（メウバン）水飛（スイヒ）　硼砂（ホウシャ）　黄蠟（わうラウ）各七分
石八種各細末して合し
むくろじの実（ミ）を湯（タウ）にて空腹（クウフク）の時（とき）煎（せん）じ
湯酒（タウシュ）にて服（ふく）すべし妻（つま）ある男（をとこ）は交（ツルヒ）合（ガフ）を
服すべからず
馬丹（バタン）皮（ひ）　筋骨（きんこつ）とやらひ玉（たま）ふ薬（くすり）と長（なが）く
沈香（チンカウ）
乳香（ニウカウ）
没薬（モツヤク）

末香　兎絲子　各五分　茴香一分

破故紙一兩炒　桃仁　四十个去皮

右八種各細末一炼之蜜丸一粒ヾ温酒

或鹽湯下空腹食前

如有孕婦服之令胎堅牢

男子陰虛精冷

取婦人乳汁一盞煎令減半

每用一月一服如此數次

即陽事堅久

婦人陰虛精冷

取男子陽精一盞煎令減半

每用一月一服如此數次

即陰戸緊小

を炙くとすをざるもの

蛇床子　狗脊　各二匁

肉桂　各二匁

定粉二匁

右四種各細末し交合の時ひ紙ぬりて後深の法

孫やしゃ玉莖よりぬりて交合の時ひ紙ぬりて後深の法

おとなふ時女まら男とおよ事後ろ

千壷百壷ろ

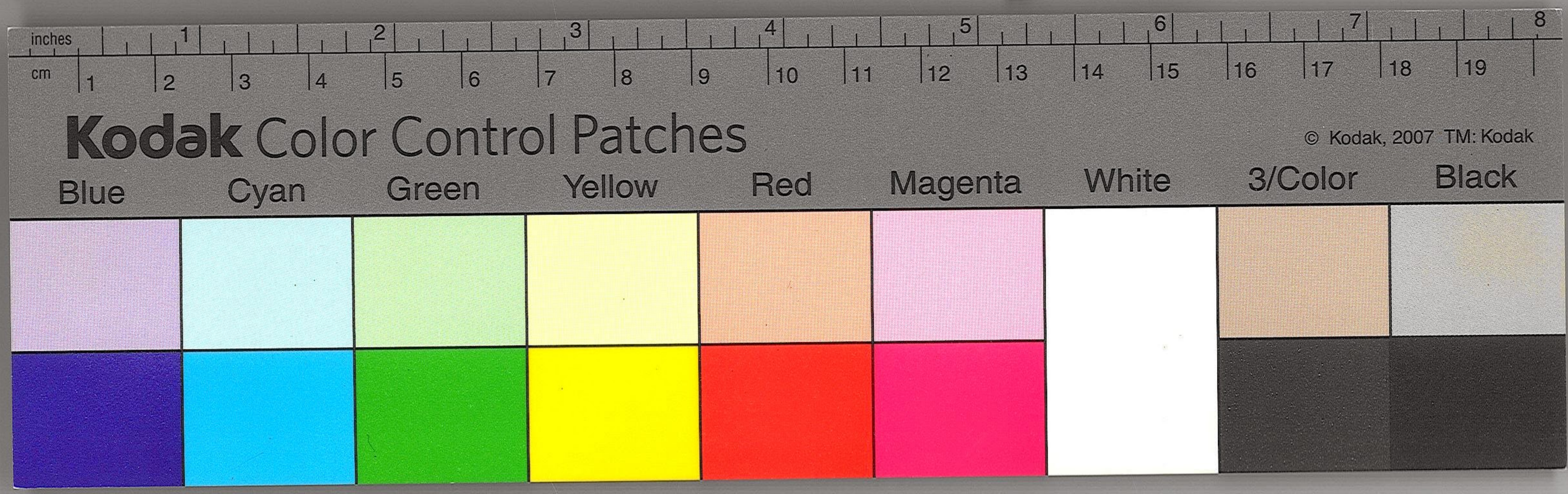
右件等梅八大明神之圖像と相交たる印
本吾朝に来ること甚深遠
幽微にして淺学の徒甚術卒に習ひがた
く真法輒く告ひらき故に真詞玅
旨明らかに文字や
ことを遂げて人として陰陽和
合之道をとりなす婚姻交姤理をおこ

わひやをからむ志めんとす
をもうり遊興をすすめる事とすれの也強ち淫情を
天真之至寶をたもつべきのみ
久敷ら志免んとのぞ

平時天文廿一年正月吉日　　道三

奉授与松永弾正忠殿　　可秘




inches
1
2
3
4
5
6
7
8
cm
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black